

Day1 10:00-11:10 フジタホール 2000

RU11 special programme : Challenges and prospects for the World University Rankings : Japanese universities perspectives
(日本の大学が考える THE 世界大学ランキングの課題と展望)

〈スピーカー〉

笠原 博徳 (早稲田大学, 副総長)
和田 洋 (筑波大学, 理事・副学長)
杉山 直 (名古屋大学, 総長)
齊藤 延人 (東京大学, 理事・副学長)
時任 宣博 (京都大学, 理事・副学長)
〈座長〉
高橋 雅英 (藤田医科大学, 学術アドバイザー)

(内容)

THE 世界大学ランキングで重視される「国際性」について、日本のトップ研究機関 11 校で構成されるコンソーシアム「RU11」の参加 5 大学がどのように捉え、戦略に生かしているのかを人材育成と研究の観点から議論しました。人材面でのグローバル戦略として東京大学・齊藤延人副学長は、「修博一貫の国際卓越大学院教育プログラムを策定し、大学院生の学業から生活まで支援している」、京都大学の時任宣博副学長は「Kyoto iUP を活用し高度な外国人材の輩出と日本社会の定着を図っている」と述べ、各大学も独自の育成プログラムや取り組みを発表。その中で、名古屋大学の杉山直総長は、日本の課題として大学院に対する支援の弱さが優秀な人材の国外流出を招いていると指摘し、若手研究者への経済的援助を含めたサポートの強化が必要と訴えました。研究における国際競争力向上については、WPI (世界トップレベル研究拠点プログラム) を軸に、国内外の共同利用・共同研究拠点の拡充や、産官学共創による価値創造などが挙げられました。筑波大学の和田洋副学長は「WPI の育成に向け、本学では国際テニュアトラック制や海外のラボの招致を進めている。今後は、人材の流動性を担保する仕組みを日本全体で考えていく必要がある」と提言。また、早稲田大学の笠原博徳副総長は「研究の国際的なプレゼンスを高めるためにはダイバーシティの促進が欠かせない」と人材の多様化の必要性を強調し、そのほかの 4 大学も女性や外国人の登用にに向けた改革を積極的に進めていると述べました。THE 世界大学ランキングにおける日本の低迷化については、各大学とも客観的指標として捉えているとの意見で合致。日本の大学が発展していくためには、国際広報活動の強化や人文社会系の評価向上等、中長期的な展望をもって課題克服に取り組むべきとの見解を示しました。

